



平成 20 年 4 月 28 日

各 位

会社名 アストマックス株式会社
代表者名 代表取締役社長 牛嶋 英揚
(コード番号：8734)
問合せ先 専務取締役管理部門長 小島 健太郎
(電話 03-5447-8400)

平成 20 年 3 月期通期（連結・個別）の業績予想との差異に関するお知らせ

平成 20 年 3 月期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）の業績予想について、平成 19 年 9 月 12 日付「平成 20 年 3 月期業績予想（連結・個別）、特別損失の発生および当期配当方針に関するお知らせ」にて発表いたしました業績予想について差異が発生する見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 20 年 3 月期連結業績予想との差異等（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

(記載金額は百万円未満切捨)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	2,159	△558	△590	658
今回修正 (B)	2,469	△537	△558	613
増減額 (B - A)	310	21	32	△45
増減率	14.4%	—	—	△6.8%
(ご参考) 前期実績 (平成 19 年 3 月期)	988	△15	△86	△93

2. 連結業績予想との差異が生ずる理由

(営業収益)

当期の営業収益は 2,469 百万円の見込みで、前回予想より 310 百万円増加となる見込みです。最大の要因は前期下期に東京工業品取引所等の商品先物市場における流動性・価格変動率（ボラティリティ）が高まったことにあります。これにより、ディーリング事業からの収益が前回予想に比べ、594 百万円増加する見込みです。

一方、外国為替証拠金取引事業では昨年 8 月以降のサブプライムローン問題による急激な円高により顧客資産の大幅減少等があり、前回予想より 133 百万円の減少となる見込みです。

更に営業投資事業では、当社企業グループが運用するファンドへの投資が、運用収益率の悪化

により大きな損失を出したことにより、前回予想から 107 百万円減少する見込みです。

その他、商品及び証券投資顧問事業にて予定していた運用資産額が大幅未達であったことにより 95 百万円の減少、商品先物取引受託事業にて 51 百万円の増加等があり、営業収益全体では 310 百万円増加する見込みとなっております。

(営業費用)

営業費用は、上述のとおり、ディーリング取引が活発に行われ、営業収益増加となったことに伴い、商品先物取引所の定率会費増加等で 170 百万円増加、インセンティブ給・賞与増加等による販売費及び一般管理費 113 百万円の増加があり、前回予想と比べ、合計 289 百万円増加し 3,007 百万円となる見込みです。

(営業外損益)

営業外損益については、前回予想と比べ差引 11 百万円の営業外収益の増加となる見込みです。これは当初予定していなかったドットコモディティ株式会社からの業務受託収益 12 百万円が見込まれるためです。

尚、ドットコモディティ株式会社からの業務受託とは、同社に昨年 9 月末商品先物取引受託事業を事業譲渡した後、一部関連業務を当社子会社が業務受託していたものです。

(特別損益)

特別利益は前回予想と比べ 31 百万円増加し、1,756 百万円となる見込みです。これは商品取引責任準備金取崩益が 70 百万円増加し 620 百万円の見込みとなったこと、商品先物取引受託業務廃止に伴う取引所関連特別利益が 54 百万円減少し 405 百万円に留まる見込みであること等によるものです。

特別損失は 49 百万円増加の 323 百万円と見込んでおりますが、商品先物取引受託業務関連リース契約の解約損が 53 百万円増加の 147 百万円となることが最大の理由です。

以上の結果、営業損失は前回予想 558 百万円より 21 百万円減少し 537 百万円、経常損失は前回予想 590 百万円より 32 百万円減少し 558 百万円となり、当期純利益は前回予想 658 百万円より 45 百万円減少し 613 百万円となる見込みです。

3. 平成 20 年 3 月期個別業績予想との差異等 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(記載金額は百万円未満切捨)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	851	△221	△219	△221
今回修正 (B)	1,287	△60	△21	△62
増減額 (B-A)	436	161	198	159
増減率	51.2%	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 19 年 3 月期)	1,020	40	△0	△15

4. 個別業績予想との差異が生ずる理由

連結業績の予想数値との差異とはほぼ同様の理由で、ディーリング事業での増収が他事業部門での減収を補う形となり、営業収益は前回予想より 436 百万円改善する見込みですが、同事業部門での増収に伴う商品先物取引所の定率会費、インセンティブ給の増加等による営業費用の増加 275 百万円があり、営業損失は前回予想より 161 百万円改善し、60 百万円となる見込みです。

更に業務受託収入（営業外収益）の増加 35 百万円等により、経常損失は 198 百万円改善し 21 百万円となる見込みです。尚、当期純損失につきましては、子会社株式の減損処理に伴う特別損失 41 百万円が発生するため、前回予想より 159 百万円の改善に止まり、62 百万円となる見込みです。

5. 期末配当について

当社では従来から連結純利益の 30%を目処に株主の皆様へ利益還元を行う方針としておりますが、期末配当につきましては平成 20 年 3 月 24 日付「配当予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしましたとおり、現在まだグループ全体の事業の再構築を鋭意推進中であることより、そのための内部留保を考慮し、今回連結純利益の約 5%相当を原資とする配当（今回の修正値をベースに計算すると一株当たり 240 円）を本年の定時株主総会に提案させていただく予定です。

（注）本修正業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績がリスク要因や不確実な要素によって前述の数値と異なる結果となる可能性があります。

以上